

吹田市議会会派

立憲民主党

(都市計画審議会実施内容も抜粋して掲載)

発行元：市議会派立憲民主党
議会報告 令和8年5月議会号

吹田市議会議員

にしおか 友和



北千里駅前にある「千里北地区センター」は、まちびらきから50年以上が経過し、建物の老朽化が進んできました。エレベーターや段差などのバリアフリーも、今の時代には十分とは言えません。

そこで吹田市は、この駅を「人にやさしく、にぎわいのあるまち」へと生まれ変わらせる計画を進めています。これまで9回にわたって開かれた住民の皆さんとの意見交換会には、のべ426名もの方がご参加くださいました。皆さんの声を反映しながら、計画は大きく動き出そうとしています。

北千里駅前の市街地再開発 タワーマンションありきでは許されない

① 車より「人」が中心の駅前へ

今の駅前は、ロータリー（車のための広場）が真ん中にあり、歩く人にとっては少し不便です。これからは、広場や歩行者の通り道を広くとり、ベビーカーや車いすでも安心して移動できる、人が中心となった北摂地区で最高の駅前を実現させます。



② 子育て世代も、お年寄りも集える

保育所や児童館、図書館、公民館などが近くで連携し、世代を超えて人が集い、交流できる拠点をつくりまします。子育て中の方も、長く北千里に暮らしてこられた方も、みんなが過ごしやすいまちへ。



③ お買い物も楽しく、災害にも強いまちに

お店や公共施設、住まいを一体的に整え、毎日の暮らしが便利になるようにします。あわせて防災機能も強化し、いざというときにも安心できるまちづくりを進めます。

よく「工事中は買い物ができなくなるの？」と問い合わせをいただきます。工事区域を細分化してスーパーや店舗を閉鎖せずに工事を進めるよう、市民の皆様の声を反映させるよう調整しています。



タワーマンションへに対する不安と私の思い

北千里駅前の再開発でいちばん多くいただくのが、「タワーマンションありきの計画ではないか」というご心配の声です。

このご不安は、もっともだと思います。高層マンションには、「見慣れた景観が変わってしまう」「ビル風が強くなるのか

「建物の高さで日当たりはどうなるのか」「何十年も先まできちんと管理されるのか」といった、暮らしに直結する心配がつきものです。**北千里地区で暮らす地元住民である私も同じ思いです。**このまちが大好きだからこそ、大きく姿を変えることに戸惑いを感じる。その気持ちを、私は何より大切にしたいと考えています。



- 1 2016年 北千里駅周辺活性化ビジョン策定
吹田市が地域の将来像を策定
- 2 2022年4月 北千里駅前市街地再開発準備組合 設立
地権者・行政が一体で検討開始
- 3 2023年～2026年3月 住民意見交換会 全12回開催
まち歩き・ワークショップ・計画説明
- 今 2026年5月～6月 都市計画審議会・景観部会 審査中
5/25 都市計画審議会 6/4 景観部会（予定）
- 5 2026年7月 住民説明会 実施
都市計画決定目標：2026年11月
- 6 2027年以降（想定） 再開発ビル 本体工事着工
権利変換計画認可後に着工
- 7 2037年以降（想定） 全体竣工・まち開き
約10年の工事を経て完成

このプロジェクトは先行して完成している「まちながりビング」等との連携を図り、地区センターとしての機能、「人の賑わい」を創出することを実現すべきであり、万博記念公園との玄関口としての機能も備え、高齢者と子ども達、多世代が交流できる施設として未来の北千里を作るものです。

市の説明では、日照や交通については専門的な調査が行われ、現時点では大きな支障はないとされています。

ですが、それが本当に十分なのか、皆さんが安心できる説明になっているのか、そこを引き続き確認し、検証していくべきだと考えています。「もう決まったことだから」では終わらせません。**皆さんと一緒に納得できるまちづくり**を実現します！

交通問題



1. 駅前交通広場の再整備と動線の分離 現在のバスターミナルやタクシー乗り場、一般車スペースの配置を根本から見直し、それぞれの動線をすっきりと整理します。これにより、バスの出入りや送迎の車による駅前交差点付近の数珠つなぎの渋滞を解消し、円滑な流れを確保することが求められます。

2. 歩行者デッキの整備による「歩車分離」の徹底 駅と新しい再開発ビル、そして周辺エリアを繋ぐ「歩行者デッキ（専用の歩行者空間）」を一体的に整備します。歩行者が地上を横断する機会を無くすことで、歩行者の絶対的な安全を確保すると同時に、信号待ちによる車両の滞留（渋滞）を解消するよう市に要望します。

3. 開発規模の縮小（ダウンサイジング）による交通量の抑制 当初の超高層マンション計画から、住宅戸数を「約700戸から約500戸」へと大幅に削減させました。この規模の適正化により、再開発完了後に新しく流入する自動車の総数そのものをあらかじめ抑制し、周辺道路への負荷を低減させます。

1974年 吹田生まれの吹田育ち。千里山岡地に生まれ、佐井寺・五月が丘育ち、藤白台に在住 3児の父親
千里第二小学校～佐井寺小学校～佐井寺中学校～箕面自由学園高等学校 関西大学 法学部 大阪府立大学 大学院 博士前期 修了
株式会社ドコモCS（NTTグループ）に20年間 勤務 ICTシステムコンサルタント
藤白台小学校PTA会長（2018年・2019年・2023年・2024年） 元青山台地域教育業議会 副会長 元藤白台地区青少年対策委員長
吹田市議会：文教市民常任委員会 委員長 立憲民主党大阪府連合 副幹事長 整理収納アドバイザー 準1級
大学（大学院）は働きながら奨学金を利用して全額自費にて卒業。その経験から学費の無償化や無利子奨学金制度の導入を求める活動を通じて政治家を志す。3児の子育てまっさい中、吹田市の教育に熱い思いをもって、市政に取り組んでいます。